

大学情報活用フォーラムのご案内

2019年6月吉日

株式会社S R A東北

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度弊社では、下記の日程にて「大学情報活用フォーラム」を開催することになりました。

「大学情報活用フォーラム」では、講師をお招きして各大学・機関における情報活用の事例等を紹介すると共に、参加者皆さまの情報交換の場としてお役立ていただければと考えております。

ご多忙中とは存じますが下記開催概要をご参照の上、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

敬具

記

開催概要

- 開催日時 2019年8月2日(金) 13:00～ (受付開始: 12:30～)
- 会場 ホテルメトロポリタン仙台
第1部 講演会 4階『千代西』
第2部 交流会・情報交換会 4階『千代南』
※第1部と第2部で会場が異なりますのでご注意ください。
- 定員 120名(先着順とさせていただきます。)
- 参加対象者 大学・教育機関の教職員のみとさせていただきます。
- 参加費 第2部 交流会・情報交換会へ参加されるお客様については、お一人様2,000円の会費を当日会場の第二部受付にて申し受けます。
- アクセス



ホテルメトロポリタン仙台: 〒980-8477 宮城県仙台市青葉区中央1丁目1番1号

TEL 022-268-2525 FAX 022-268-2521

JR仙台駅2階正面出口(西口)から歩道橋(ペDESTリアンデッキ)に出て左方向へお進みください。会場へはホテルメトロポリタン仙台2階入口から入り、エスカレーターで3階までお越しください。

※プログラム内容については裏面をご覧ください。

プログラム 受付開始 (12:30-)

第1部 講演会 (13:00-17:30)

(1) 山形大学における教員評価システムの運用と活用について

講演者：山形大学 学術研究院 教授 浅野 茂 様

昨今、日本の大学に対して、教員評価の実施と評価結果に基づく処遇への反映が求められるようになってきました。山形大学では、2018年度に従来の規程を改正し、山形大学情報データベースを活用して教員の点検・評価を行うこととなりました。

本報告では、新たに改正した規程の下で実施する教員の点検・評価の概要に加え、その実施基盤となる山形大学情報データベースの特徴と活用方策等について、実際の画面を紹介しながら、話題提供させていただきます。

(2) Power BI Report Server を用いた IR システムの構築について

講演者：山形大学 学術研究院 教授 藤原 宏司 様

山形大学次世代形成・評価開発機構 IR 部門 (OIRE) では、学校基本調査等の公開データおよび無料で利用可能な BI ツール (Power BI) を用いた学内外データの可視化を実践してきました。しかし、この仕組では学内限定データや個人情報が含まれるデータを取り扱うことは困難でした。そこで OIRE では、オンプレミスで IR レポートを発行できる「Power BI Report Server」を導入し、より利用価値の高い IR システムの構築を開始しました。

本報告では、この IR システムについて紹介するとともに、個人情報をもどのように BI ツールで扱うのか等の Tips を共有します。

(3) データに基づく経営を意識した大学情報の流通に関する提案

講演者：東京工業大学 広報・社会連携本部 (情報活用 I R 室) 教授 森 雅生 様

日本の高等教育機関は、改善を重視した組織運営の要求に、大学評価を軸にした改善サイクルの確立を進めることを始め、すでに十余年が経過しましたが、未だ足りないとして政府はさらにデータに基づく方針策定 (EBPM) や、セグメント分析に基づいたコスト測定の徹底などを求めています。そこで、高等教育機関は人事・財務情報を始め、教育研究の活動情報、社会貢献の成果情報などの収集を強化し、政府の要求に対応しようとしています。その一方で機関の情報収集において、業務システムに蓄積されたデータを単にダンプするだけでは活用ができない可能性があります。こうした課題を回避するため、近年の欧米において機関情報の蓄積に FAIR 原則を導入する試みや、永続的な研究者の ID として ORCID を導入する例が増えております。こうした実例などを踏まえ、本講演では、機関情報の流通を円滑にするための対策について紹介します。

(4) 慶應義塾大学における研究者データベースシステムのリニューアルについて

講演者：慶應義塾 学術研究支援部 (講演者については現在調整中)

本学で運用している「慶應義塾研究者情報データベース (K-RIS)」は、本学の研究・教育活動の状況を収集・蓄積し、国内外に情報公開するシステムです。今回、新システム導入により、検索機能の利便性が向上するとともに研究者の入力負担が軽減され、タイムリーなデータ更新が可能となりました。新 K-RIS では、入力負荷の軽減のために様々な外部のデータベースからのデータ連携を実施し、研究情報のより一層の充実を図れるようにしております。

本セッションでは、新 K-RIS の概要とともに、システム導入～運用事例についてご紹介いたします。

(4) SRA 東北ソリューション紹介

講演者：株式会社 SRA 東北

弊社製品「DB-Spiral」を中心とした大学様向けソリューションに関する今後の展開および、新しい取り組みである AI・RPA などを活用した業務効率化の事例について紹介いたします。

第2部 交流会・情報交換会 (17:40-)